

持続可能な世界の実現のために

近年の地球環境の異変は、今や世界中で認識されている。地球環境の持続可能な発展を実現させるための課題や対応について、石井菜穂子氏が語った。

講師：石井 菜穂子 氏

地球環境ファシリティ(GEF)
CEO兼議長



1950年代以降の経済活動拡大で地球環境が悪化した

氷河期の後、1万1,700年前から始まった「完新世」には気候が暖かくなり、かつ安定した。それとともに人類は農業を始め、文明が発達した。それから産業革命を経て1950年代以降、経済活動が急速に拡大してから、急激に地球環境が悪化した。2050年には世界の人口が95億人になり、特に中産階級が急速に増えることによって、地球環境への負荷がさらに高まるだろう。

2015年9月には世界中の国が、持続可能な開発を目指すこと、そのための17の目標(SDGs)に合意した。同年12月には、気候変動に関するパリ協定で2020年以降の温暖化対策の国際枠組みが決められた。両合意とも、健全な地球環境が持続的開発の基本的な条件であるとの認識のもとに成り立っている。市民や企業の幅広い支持を受けると同時に、南北の国が同様に責任を果たそうという点で共通点のある合意になった。

2030年まで毎年12兆ドル以上のビジネス機会が

ビジネス界では環境問題をリスクとしてだけでなく商機としても捉えている。SDGsが実現されれば、2030年まで毎年12兆ドル以上の新しいビジネス

機会ができると推計されている。具体的には、エネルギー、モビリティ(輸送)、農業と食料、都市インフラ、保健衛生などの分野で大きなビジネスチャンスがあるという。

今後持続的な成長を可能にするには、四つの経済分野で大きな変革が必要だと考えられる。一つ目は食糧と農業制度の変革だ。人口、特に中産階級が増えると、2050年までに食糧を今の65%以上増やさなくてはならない。一番大きな問題であると同時に、一番大きなチャンスでもある。二つ目がエネルギー制度の変革だ。温室効果ガスの半分以上はエネルギーの生産・利用に伴って排出されている。再生可能エネルギーの割合ははまだ少なく、技術革新はまだ必要だ。三つ目は、都市制度の問題だ。都市をもっとコンパクトにし、都市交通やビルの省エネ化を進めると、環境への負荷が大きく変わる。四つ目が、持続可能な製造と消費モデルを作ることだ。これまでの経済活動は、材料を採取し、製造し、廃棄するという直線的な経済モデルであったが、これを循環型に変えることにより、経済活動に使われる資源そのものを減らすことができる。そのためには製品のデザインから変えていく必要がある。所有

から共有へという意識の改革も必要だ。

以上の4分野でシステムを変えていけば、地球環境の悪化に歯止めがかかると考えられる。

地球環境を「グローバル・コモンズ」として解決したい

地球環境問題は、一人ひとりが自分の問題として考えるようにならない限り、根本的には解決されない。そのためには、環境問題の解決は不可避であること、技術的に可能であること、それを実行すれば皆が幸せになるという三拍子を訴える必要がある。

GEFでは、地球環境問題を、世界公共財——皆が協調して守っていかないと、いずれは全員が大きなしっぺ返しを受ける——として位置付け、一人ひとりが何をすべきかを考えていこうという運動を展開している。ステークホルダーの連携を深めることで、グローバル・コモンズの解決に近づいていきたいと思っている。